

July 20, 2009 蓼科高原 → 大門街道 → 霧が峰：車山高原

20年ほど前には有料道路であったビーナスラインはとっくに無料となって、今は無用となった料金所ゲートが残る場所から数百メートル上ったあたりですばらしい眺望が開けてくるが、ニッコウキスゲはぱらぱらとしか咲いていない。車山高原をすこし散策してみようと 駐車場のあいた場所をみつけて車をすべりこませ、ビデオカメラだけをもってリフト乗り場周辺へと流れる人の波についていく。土産物店などもあって多くの観光客でにぎわう広場にでると、その人ごみを縫うように足元を小さなヒョウモンチョウが飛んでいる。紛れもないコヒョウモンモドキだ。いまや絶滅危惧 I B 類選定の保護対象となってしまうが、かつては霧が峰高原強清水などにうじゃうじゃと飛んでいたものだ。今回、このコヒョウモンモドキに会えるとはまったく考えていなかっただけにうれしくなって、ビデオカメラ ON でその飛翔を追う。チョウから目を離さないようについていくと、リフト乗り場横からスロープとなって広がる草むらへと入っていく。そこには白のヒメ ジョオンやピンクのフウロソウの花々があり、2,3頭のコヒョウモンモドキがのんびりと飛び遊んでいる。兵庫のウスイロヒョウモンモドキにくらべると明らかにオレンジが濃く、ヒメジョオンの白い花にとまって背景の緑にもよく映えたきれいな映像が撮れる。1974年8月7日に強清水の草原で、辺り一面このチョウだらけという光景を楽しんだ際、ここまできれいなチョウだったという印象のないのが不思議だが、当時はカメラでじっくりと撮影するなどということをしなかったせいだろう。2010年7月27日に再訪問した際には本種は全くみられなく、2011年7月に訪れた知人の話でも本種を観察できなかったようだ。



July 17, 2016 群馬県湯の丸高原、小鳥帽子岳

朝から陽ざしが強い好天気。9時前から草原に陽光が広がっているので入り込み、比較的新鮮度が高いミヤマシロチョウを観察するなか、遠くでコヒョウモンモドキがあると立岩さんが手招きをしてくれるので走り寄って撮影。ホシチャバネセセリの撮影から戻った北岡さんと竹内さんにも知らせてみんなで撮影タイム。



午後から登った小烏帽子岳山頂部では、午前中に最初で最後かもしれない、同行メンバー全員で寄ってたかって撮影記録をとったコヒョウモンモドキが、じつはこの高山地帯でも出迎えてくれ、群馬メンバーの登山靴や、もう帰ろうかと準備をする筆者のザックにまとわりついて、まだ帰るのは早いといわんばかりの愛嬌を振りまいてくれる。いよいよ山を下り始めたところで立岩さんが 300mm 望遠で狙っていたのがハクサンフウロウで吸蜜中のコヒョウモンモドキ。筆者も急ぎビデオカメラのズームアップでお相伴させていただく。その撮影を終えて再び歩き始めた足元の路面で、陽光を受けて翅表をキラキラと輝かせて見せてくれる個体には、そのような美しい観察角度があったのかと驚きを隠せない。

